

# 細野高原

## 1. 目指すべき景観像

### 伊豆半島が次世代に伝えていくべき 地域の風土が守り育ててきた絶景の海すすき 細野高原



① 相模湾と細野高原の一体的な眺望



② 地域が守り育ててきた貴重な自然

## 2. 地域特性と景観形成の方向性

細野高原は、「相模湾と細野高原の一体的な眺望」と「地域が守り育ててきた貴重な自然」の2つの側面があるため、それぞれについて地域特性及び景観づくりを進める方向性を整理します。

### ① 相模湾と細野高原の一体的な眺望

#### (1)眺望



#### 全国的にもめずらしい海すすきの眺め

細野高原では、三筋山の頂上付近から眼下に広がるすすき野原と、その先に広がる相模湾を一度に眺めることができ、全国的にも珍しい景観となっています。相模湾のほか、伊豆大島や利島、新島、式根島、神津島、天気の良い日には三宅島等まで眺めることができます。

こうした魅力的な視点場においては、ゆっくり休んで景色を眺めるためのベンチの設置や修景、風景を解説する案内看板等の設置や、高原の中腹では散策を楽しむためのトイレの整備など、快適な眺望づくりに取り組みます。

こうした整備にあたっては、伝統ある山焼きの風習の妨げとならないよう、設置場所や素材に十分に配慮する必要があります。

#### (2)観光



#### 知る人ぞ知る広大な自然を満喫できる細野高原

20年以上前から春の山菜狩り園は有名で、多くの観光客が訪れていましたが、秋のすすき野原はあまり知られていませんでした。数年前から観光資源としてアピールし、秋のすすき祭りを開催したことで、年々観光客は増えています。

今後は観光客向けの休憩施設や散策路の整備が必要です。

また、細野高原へのアクセス道路において、複数ののぼり旗や仮設的な案内看板が設置されており、案内看板の統一的な設置やのぼり旗の集約、撤去を行っています。

#### 〈景観形成の主な課題〉

- ・ゆっくり歩ける散策路や、要所で休憩・情報収集できるベンチ、案内看板、トイレ等の未整備
- ・すすき野原から海への眺望を阻害する要素
- ・アクセス道路の整備の不足、広告物の林立

②地域が守り育ててきた貴重な自然

(1)自然



広大に広がる一面のすすき野原

細野高原の秋は、標高400m付近から標高821mの三筋山の山頂までの約125haという広大な一面のすすき野原となります。

昭和期まで日本各地では茅場として利用される草原が多くありましたが、住宅素材の変化に伴い、茅の需要は少なくなり、茅場の多くも放棄されるようになりました。しかし、細野高原では地域住民の手により、毎年山焼きが行われ、数百年の間すすきの草原が維持されてきました。



季節の変化とともに見ることができる貴重な植物

細野高原は湿原地帯でもあり、春にはフデリンドウ、フモトスミレ、夏にはウツボグサ、カキラン、秋にはヤマトリカブト、リュウノウキキなど、四季折々の貴重な植物を見ることができます。

今後は、地域の中から植生のガイドを育成していくとともに、植生の維持のために管理体制を整えるなど、保護活動を進めていきます。

(2)伝統



地域に受け継がれてきた山焼き

細野高原では、毎年、地域住民の手によって山焼きが行われています。山焼きをすることによって害虫の駆除や周辺の木々の生長を防ぎ、湿原の雄大な自然が維持されてきました。

近年では、地域住民の高齢化により、山焼きの担い手が減っており、今後の人手不足によっては伝統手法の継承が十分にできず、すすき野原を維持できなくなるおそれがあります。こうした伝統的な山焼きの風習を伝承していくための体制づくりが必要です。

〈景観形成の主な課題〉

- ・地域住民が守ってきた山焼き等の風習の担い手不足、継続的な人材確保の必要
- ・貴重な植生や伝統を維持していく体制、仕組みが必要



地域特性や景観づくりの方向性から、改めて目指すべき景観像と景観目標を整理します。

## 伊豆半島が次世代に伝えていくべき 地域の風土が守り育ててきた絶景の海すすき 細野高原

### 目標1

相模湾と細野高原の  
一体的な眺めを楽しめる  
景観づくり



### 目標2

細野高原の自然を  
将来に継承する  
体制づくり



### 景観づくり方針

- ① すすき野原の自然の中で散策できる景観づくり
- ② 海とすすきを一体的に楽しめる視点場づくり

### 景観づくり方針

- ① 次世代に魅力的な景観を継承する人づくり
- ② 貴重なすすき野原を守り育む体制づくり

## 目標1 相模湾と細野高原の一体的な眺めを楽しめる景観づくり

### 方針1-① すすき野原の自然の中で散策できる場づくり

	取組み	実施主体
短期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 案内看板のデザインの統一、修理</li> <li>● 日陰・雨除けになるあずま屋の整備</li> <li>● アクセス道路、駐車場等の不要なのぼり旗の撤去</li> <li>● 自然景観にそぐわないフェンスの修景</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 町、管理者(土地所有者)</li> <li>● 町、管理者(土地所有者)</li> <li>● 町、管理者(土地所有者)</li> <li>● 町、管理者(土地所有者)</li> </ul>
中・長期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自然の景観に配慮した散策路の整備</li> <li>● 景観に配慮した観光バスにも対応したアクセス道路の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 町、管理者(土地所有者)</li> <li>● 町、管理者(土地所有者)</li> </ul>

### 方針1-② 海とすすきを一体的に楽しめる視点場づくり

	取組み	実施主体
短期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 細野高原、海への通景を阻害する雑木の剪定</li> <li>● 眺望の案内プレートの整備</li> <li>● ベンチの修景</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 町、管理者(土地所有者)</li> <li>● 町、管理者(土地所有者)</li> <li>● 町、管理者(土地所有者)</li> </ul>
中・長期	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ソーラーパネルの設置規制など、眺望景観を阻害する要因の規制</li> <li>● トイレの整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 町、管理者(土地所有者)</li> <li>● 町</li> </ul>



目標2 細野高原の自然を将来に継承する体制づくり

方針2-① 次世代に魅力的な景観を継承する人づくり

	取組み	実施主体
短期	● 山焼きの講習会、担い手の育成	● 地域住民、管理者(土地所有者)
中・長期	● 地域住民の保全意識の醸成 ● 来訪者のマナーの啓発	● 町、地域住民、管理者(土地所有者) ● 町、地域住民、管理者(土地所有者)

方針2-② 貴重なすすき野原を守り育む体制づくり

	取組み	実施主体
短期	● 重点保全エリアの設定 ● 土地所有者との連携強化による管理体制の構築	● 町、管理者(土地所有者) ● 町、管理者(土地所有者)
中・長期	● 貴重な植物の保全、啓発 ● 山焼きを継承していくための体制の検討	● 町、地域住民、管理者(土地所有者) ● 町、地域住民、管理者(土地所有者)

